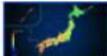


インターネット社会実証(第二期)の実施について

<経緯と目的>

NHKは、2022年4～5月にかけて、テレビを全く、あるいはほとんど見ない方々を中心に社会実証(第一期)を実施し、これまで主に放送で果たしてきた役割・機能について、インターネットを通じてどのように果たせるのかを検証しました。結果、情報空間の課題解決や、望ましい情報空間の実現につながるものとして、一定の理解と支持が確認されたところです(以下の7つのサービスを通じて実施)。

(第一期の結果報告の詳細は、2022年6月2日にNHKホームページに掲載)

①	● 主要ニュースについて、NHKの豊富なアーカイブを活用し類似ニュースの“まとめ”とは違う多角的視点を提示	NEWS WEB ・NHK+	
②	● 話題となっているコンテンツについて、通常のレコメンドの範囲とは違う幅やジャンルの多角的視点を提示		
③	● 最新ニュースについて、SNSでの盛り上がり进行分析し、分断やスパムを検知し、信頼性の課題等をアラート	フェイクアラート	
④	● 災害報道の情報を蓄積して、地図上に可視化し、危険予測・判断材料を提供	災害マップ	
⑤	● あるニュースのテーマについて、各都道府県での差異を地図などで同時に提示し、日本の多様性を提示	地域ニュース	
⑥	● 多くの動画ニュースが一目でわかると共に、重要度や新着順などに応じて適切に自動編集、連続再生する機能	一望・連続再生	
⑦	● 動画や画像アーカイブを位置情報と連携させて活用することで、日本各地の風土や多様性を提示する機能	地域文化	

NHKでは、“安全・安心を支える”“あまねく伝える”を強化する修正経営計画を決定したことも踏まえ、このうち④⑥について、さらに具体的に、NHKに期待される役割・機能を検証する社会実証(第二期)を実施します。

<実施概要(第二期)>

- ・ 実施日程:2023年2月10日～2月24日
- ・ 実証対象:テレビを持っていない方々や日常的に利用されていない方々、あわせて約1300人
- ・ 実証方法:各サービスを体験・視聴いただいた後にアンケート調査を実施

第二期 災害マップ

④ ● 災害報道の情報を蓄積して、地図上に可視化し、危険予測・判断材料を提供

災害マップ



(第一期のサービス)

- ・ 時間のスライダーを動かすと、警報の地域がどのように広がっていくか、被害のニュースがどのように出されていくかが見られる
 - ・ 累積的に表示されるようになっており、どのように影響が拡大しているのかが分かる
- ➔上記プロトタイプを提供したところ、81.2%が防災・減災のために今後の対策を立てるのに社会にとって有用と回答した。

(第二期)

- ・ 防災・減災の具体的な課題として、放送で呼びかけても、一般的過ぎて、「避難のスイッチ」がなかなか入らない、ということがあります。
- ・ そこで、上記の具体的な応用として、身近な地域の過去の災害について、立体的に詳細に追体験できるようにし、将来の「もしも」の時に、“行動変容”を促せるかどうか、検証を行います。

(検証イメージ)

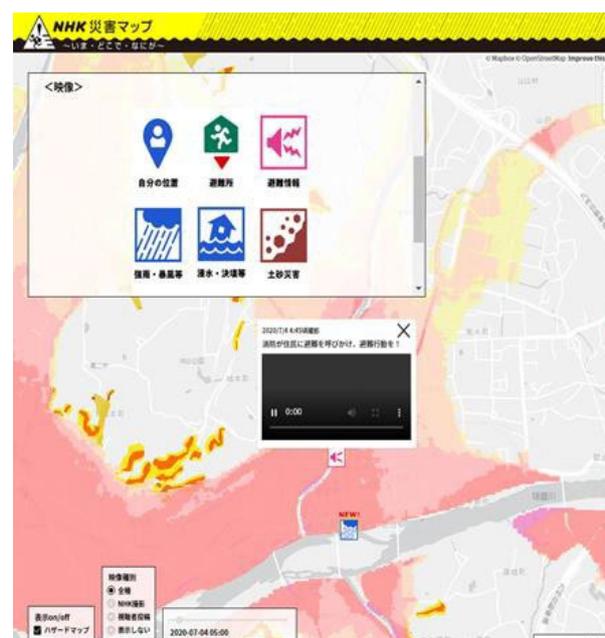


災害時、命を守る第一歩は「いま・どこで・なにが」が起きていることを把握し適切な行動につなげることです。

この実証実験は、NHKの持つ取材情報や映像の他、刻々と変わる災害の実際の道路状況やインフラの最新の状況をデジタル地図上で可視化し、あなたと、あなたの大切な人の、命を守る行動を支援する取り組みです。



実際に生じた災害を、
実際には知ることができなかった“俯瞰”で追体験



第二期 総覧視聴・連続再生

⑥

● 多くの動画ニュースが一目でわかると共に、重要度や新着順などに応じて適切に自動編集、連続再生する機能

一望・連続再生



(第一期のサービス)

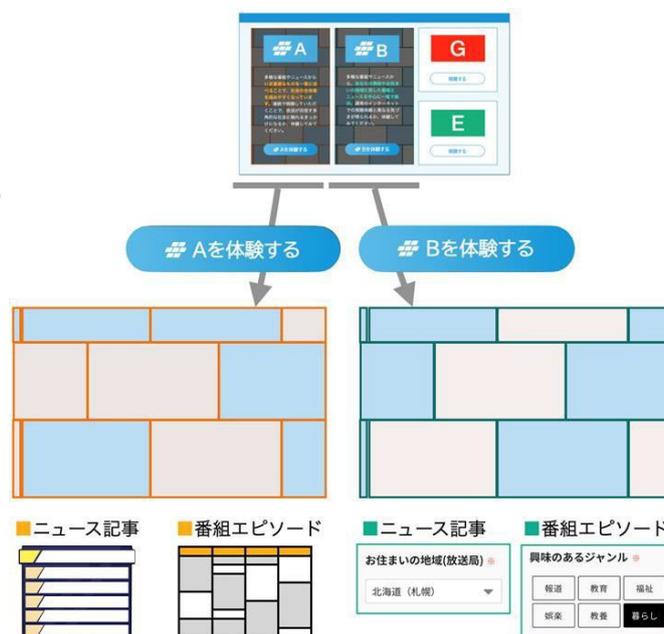
- 最新のニュース映像をいつでも一覧で見ることができるようになるとともに、重要度や新着順などで優先順位をつけながら、24時間、最新情報をご覧いただける機能を提供
- ➔66.1%の人が、偏ることなく知識をつなげたり、社会の全体像を掴んだりするうえで社会にとって有用と回答した。特に、問題意識もネット活用度も低い層の78.6%が社会にとって有用と回答した。

(第二期)

- 「テレビを全く、あるいはほとんど見ない方々」は、検索・レコメンド等を中心に情報にアクセスし、効率的な情報摂取をする一方、視野が狭くなりがちになるとの指摘もあります。
- 規範的な役割・機能については第一期で評価をいただきましたが、実際には興味が向かわず使ってもらえない、一方でアテンションエコノミーに則ってしまっは意味がない、という現実に対し、NHKならではのバランスの確立をめざします。
- 日頃のニュースやコンテンツへのアクセスの習慣に沿って、対象を数グループに分け、一覧のコンテンツ提示の様々な手法により、放送が担ってきた多様性を提供する機能を具体的に示し、どのように受容されるかを検証します。

(検証イメージ)

放送同様に、NHKの価値判断によるニュース等が混ざって提示される場合(A)と利用者の嗜好の通りに提示される場合(B)の效用、便利さ等の比較を実施



第二期の調査や分析の結果については、できるだけ早く「NHKのインターネット活用業務について」(<https://www.nhk.or.jp/net-info/>)に掲載するなど、広く公表して、関係者とも共有いたします。